

産直委員会発

下野市・若林さんを訪問しました 2月27日(火)

きゅうり農家の若林さんを訪ねました。若林さんは親子二代で農業をしています。くららでは、きゅうりの他、リーフレタスやわわ菜、小ねぎ、パクチー、スナップエンドウ、今年からはピーマンや春系キャベツなどを新たに加えて組合員にお届けしています。

今年からお届けしている春系キャベツです



若林さんの農業は、87aものハウス栽培が中心です。1月に訪問した海老原さんと同様、栽培するきゅうりは食味のよさにこだわったブルームきゅうり。見た目よりも味を重視し、おいしいものを作りたいという思いからだそうです。栽培の一番のポイントは、害虫の一種のアザミウマ類が媒介するウイルス病にかからないようにすること。ハウス内に黄色の粘着トラップをぶら下げて害虫を誘引し、害虫の侵入を防ぐ網をハウス周りに張り巡らせるなど、最低限の農薬で栽培する工夫を至るところに施しています。

「これが粘着トラップ、ハウスの中は32℃」



収穫中のリーフレタスや4月から収穫が始まるスナップエンドウのハウスも見学しました。スナップエンドウは脇芽の生育が旺盛なので、脇芽かきが大変だそう。色鮮やかでそのまま食べても美味しいそうですよ！

今年から本格出荷を始めたピーマンのハウスは、寒い時期の地元産ピーマンがなく需要があると見込んでの取り組みだったそうですが、組合員からの注文も多くて来年度は規模を拡大されるそうです。



「ピーマンが大きく育っています」

また春系キャベツは、4月1週からお届けしていますが、厳しい寒さや2月の積雪の影響を受け、外皮の傷みと小玉傾向がみられます。今冬の栽培はやはり大変だったようです。

若林さんのお話から、先代の知恵や技術を引き継ぎながら、若い仲間の方たちとともに熱心に学んでおられることがよく分かりました。地元の生産者を訪ねることは消費者にとって農業を知る機会であり、産直委員会の活動の中で生産者の努力をお伝えすることは大切なことと考えています。今後も産地の生産者の取り組みを紹介していきます。みなさんのご意見やご感想など、ぜひお寄せください。

(産直委員会 担当理事 三輪)



グリーンリーフのハウス内で

<今年の産直委員会は、3名の委員さんが活動してくれました。感想を寄せていただきましたのでご紹介します>

農家さんの訪問やくららのチェック、担当者さんとのお話、新商品の試食・評価など、どれもよつ葉品質のすばらしさとそれを支える皆さんの志を感じることができ、貴重な体験となりました。子育て中によつ葉生協とであえたことは幸運でしたが、その幸せが深まるような体験でした。一年間ありがとうございました。(市川)

一年間産直委員会の活動に参加して、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。以前と比べて、くららのチラシも違う角度から見られるようになりました。

普段、注文している野菜の生産者の方々を訪問でき、より身近に野菜を感じ、さらに感謝の気持ちでいただくことが多くなったように思います。チラシだけでは感じることで実体験をさせていただき、本当にありがとうございました。(清木)

生産者さんを訪問して直接お話を伺えるというのは本当に貴重な体験でした。

くららの紙面ではわからない苦労や工夫がされていることを知り、更に素敵なお人柄を感じ、益々商品に愛着がわきました。作物は工場生産と違って自然環境に左右されます。特によつ葉は市販されているものより厳しい基準です。美味しく、安心・安全なものを一生懸命作っていただいていることに心から感謝したいです。そして私達はみなさんにお伝えし、食べることで応援していきたいと思っています。(靄時)

お疲れ様でした!